

平成 30 年度

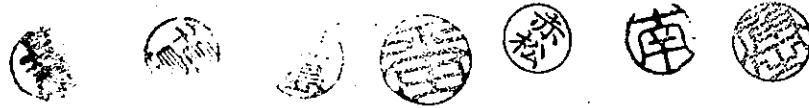
視察等の届出・報告書

(届出番号 8~10)

平成 30 年度 視察等の届出・報告書 (8~10)


届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
8	10/23~ 24	古南源二	中尾哲雄・原秀樹・ 福井荘助・福島一則	長野県泰阜村・静岡県浜松市（廃校の利 活用）

様式第1号



平成30年 10月 3日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 古南源二 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

ヌーベルファーム 泰阜	長野県下伊那郡泰阜村泰阜3817-2 ☎0260-26-2234
三ヶ日ミカンの里	静岡県浜松市北区三ヶ日町福長70-20 ☎053-524-3751

3 内 容

泰阜村	廃校を農業に利用していることについて調査研究する。
浜松市	廃校を農業博物館に利用していることについて調査研究する。

4 行 程・は別紙のとおり 10/23(水)~24(木)

5 事務局から訪問先への依頼 2か所 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

参加者名簿 (古南源二、原秀樹、中尾哲雄、福井荘助、福島一則) 以上 5



廃校利用の視察

10月23～24日

参加予定5名 古南源二 原秀樹 中尾哲雄 福井征助 福島一則

10月23日	5:50発 真庭	7:19発 車 岡山	1時間41分 新幹線	9:00着 名古屋駅	レンタカー 車	2時間10分	13:30~ ヤスオカムラ 泰阜村	午後視察 1時間30分	最終15時発 車 112km	17:40着 浜松 泊	
10月24日	浜松ホテル	60分 車	10:30~ 三ヶ日ミカンの里	視察 1時間30分	車	1時間30分	17:13発 名古屋駅	新幹線	1時間37分	18:50着 岡山駅	20:20着 真庭帰着

議長

副議長

局長

GL

係

回覧




様式第2号

報告書

平成30年 11月 5日

報告者 真庭市議会議員 氏名

古南源二 

下記のとおり政務活動費を使用して調査研究研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を代表して報告いたします。

1	日 時	自	平成30年 10月 23日 (午前・午後)	5時 40分
		至	平成30年 10月 24日 (午前・午後)	8時 20分
2	場 所	①長野県下伊那郡泰阜村3236-1 泰阜村役場 ヌーベルファーム泰阜		
		②静岡県浜松市北区三ヶ日町福長70-20 みかんの里資料館		
3	要 件	①廃校を農業に利用していることについて調査研究する。		
		②廃校を農業博物館に利用していることについて調査研究する。		
4	概要	以下の通り		

概要:

長野県泰阜村は、明治22年町村制を施行しており、長野県中南部に位置し、65km²。標高330m～770m、高齢化率は39.9%。集落数19の内10集落は小規模高齢化集落である。村の87%が山林であり大正時代には養蚕、林業、畜産が盛んに行われていた。

昭和10年代には1,100人の満州開拓団を出している。昭和30年代からの高度経済成長により村の人口は減少の一途をたどっている。昭和60年代に入ると高齢化率は20%を超え高齢化が進みだした。平成6年から新村長の下で、福祉、教育、村づくりに重点を置いた施策がとられている。平成15年には自立独立を選択し合併しなかった。

現在は、人口1,644人(H30.4.1)世帯数694、内独居195世帯、高齢者数656人、小学校1、中学校1、診療所1、特別老人ホーム1(50床)。



村独自のサービスもいろいろある。出産祝い金第1子10万円、第2子20万円、第3子以降50万円。学校給食費1/2を村負担。中学生のいる家庭に月額4,000円支給、電車通学の高校生家庭に定期券の1/2相当額支給。奨学金希望者に金融機関を紹介しその利子分を村負担。義務教育終了まで医療費無料、個人負担はレセプト費用の300円のみ。高校以上の就学援助一人につき300万円(1家庭500万円まで)

高齢者支援策としては、介護保険利用料の60%軽減、限度を超えた全額を村負担。診療所に医療費を1回500円(月4回まで)以降全額無料。診療所患者移送無料。

45歳以下の若者に、結婚10万円。村営住宅2割引き。住宅新・増改築80万円。持家取得後3年間固定資産税半額。住宅用地取得に100万円補助などいろいろ定住策もある。

ヌーベルファーム泰阜

泰阜北小学校中学校の跡地を利用して体育館で市田柿の加工、グラウンドに建設したハウスでトマト栽培を栽培している。生食トマトで2,000万円/年、市田柿は4,000万円/年の売り上げがある。常時雇用の9人はほとんど女性で卒業生、繁忙期は35人になる。80歳を超える高齢者も働いている。

事業の成り立ち

泰阜村では廃校利用にあたり、このような田舎ではどの企業も来てもらえないという考えがあり、廃校利用の希望があれば村がある程度資金援助をするべきとしていた。募集をしたところ色々な縁つながりで丸西産業が声をかけてきた、泰阜村出身で多摩川精機(株)の社長、司法書士も参加して村を交えて3セクで事業を起こすことになる。事実上は随意契約状態。

現場を受け持つのは100万円出資した飯田市に本社のある、農業資材や農産物流通や加工品カット野菜を手掛ける丸西産業株式会社が担うことになった。

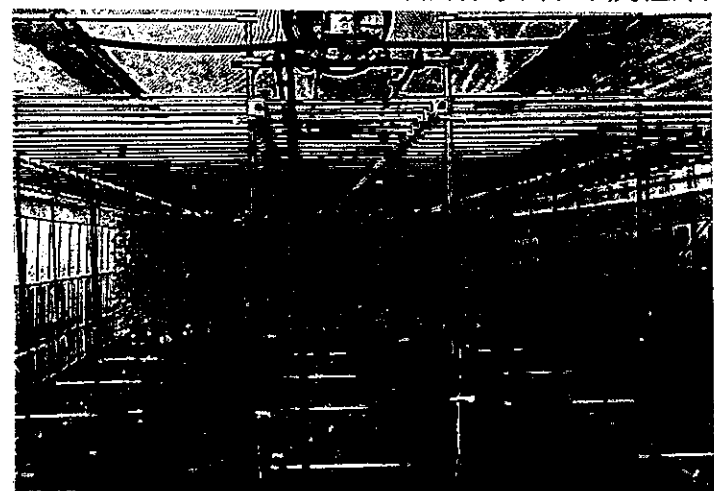
施設整備などは、平成25年度から29年度まで村が過疎債や地方創生拠点事業、地域創生加速化交付金を当てて、総額2億8千7百万円余りを投入している。

施設は、55aのグラウンドに1.7棟のビニールハウスを建て、体育館には市田柿の皮むき機6台を始め、

燻蒸装置2基、遠赤外線乾燥庫1基、早期乾燥加工施設1基など整



旧泰阜北小学校右は体育館、左は校舎棟



ハウス内部、下の黒い部分にトマトのポットを入れる。

備されている。市田柿の作業は10月から1月にかけて行われ、平成28年は60t、平成35年に300tの出荷を目指している。それには遊休農地が村には65haありこれに市田柿の苗を定植して泰阜村「柿の里」を目指すため、この施設の利益を投入することになっている。

遠赤外線乾燥することで約2週間と早く製品が出来るので、250軒ある柿農家と出荷時期が重ならないようになり、農家に迷惑をかけることはない。また、冷蔵設備もあり、一度に収穫しても保存できるので効率よい作業が出来る。

柿苗定植面積が平成26年50a 平成26年 200a 平成28年400a 平成30年 1000aの計画がある。今までに7haをヌーベルファームが借り受けて柿を植えている。将来的には、柿農家の方も高齢化で作業が出来なくなるので、柿畑を引き受けてここで一緒に働いてもらい、荒廃地を無くすることを考えている。

一方、ビニールハウスではMS式(隔離式ポット培地栽培)と言われるPCによる栽培管理を行っており、ポットを利用している。ハウス1棟当たり6,500株を栽培している。ポットにすることでトマトは最初に花が付いた方向にすべての花棚が同じ方向に向く性質があり、手前に向くようにポットを回すことにより、作業性の向上を図っている。この施設のハウス全体で35,000株あるが、女性4人で収穫作業をしている。

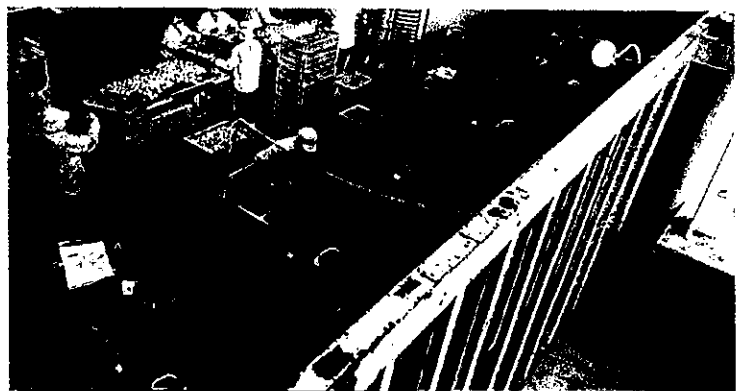
担当者は、「村が施設整備をして頂けなかったら、わが社ではこんなに費用をかけることは出来ないの、ここに進出することはなかった。」と話していた。

三ヶ日みかんの里資料館

浜松市西部に位置し、平成17年7月に佐引郡三ヶ日町から浜松市に合併した。三ヶ日町立西小学校の分校として昭和26年4月に大福寺分教場として創立され、



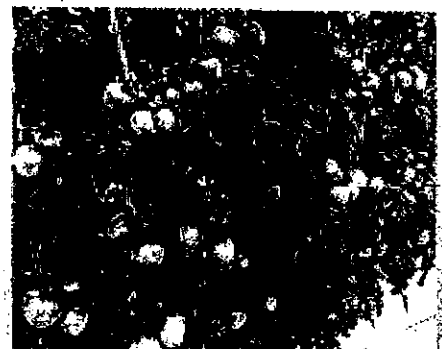
体育館内部、左の箱は遠赤外線観光装置、右の大きな箱は遠赤外線粉出し庫。皮を向いた柿を紐につるす作業中。



体育館内部、手前には6台の皮むき機。80g~170gの柿を大きさに分けて皮をむく作業をする。

MS式トマト 低段密植栽培

生育環境(地温、水分、EC)値をリアルタイムで計測し水や肥料を最適な割合で1苗毎に供給します。



昭和 30 年に町村合併により、三ヶ日町立西小学校大福寺分校に改称され1年生と2年生のみの分校であった。平成 11 年 3 月に 48 年間の歴史に幕を閉じた。

廃校後は、高速道路の工事事務所に使用されたが、跡地利用の検討が求められ、当初は地元の「郷土を守会」や「自治会」、「農家」、「農協」など7~8人で活用を話し合ってきた。座長を務めた農協OBの清水氏の活躍なくしてはこのことは進まなかったという。

その頃、静岡県に「田園空間博物館整備事業(1/2 補助)」の計画策定が進められており、この事業に「みかんの里資料館」の整備を盛り込むことになり、事業は平成 13 年度から 21 年度にかけて実施され、静岡県が事業を実施し、完了後浜松市に財産譲渡され、平成 18 年 10 月に「みかんの里資料館」としてオープンした。

建物の面積は 256.14 m²、建設事業費 3,759 万円を県と浜松市が負担している。校舎の整備だけでなく校庭には交通公園が整備され総合計で5千万円ほどかかっている。施設の年間委託費用は、2,898 千円で主なものは管理人権費の 2,098 千円である。

施設の管理運営は、浜松市が公益社団法人シルバー人材センターへ委託している。業務委託の内容としては、館の運営管理、庭に生えている日本に 3 本しかないと言われる三ヶ日みかんの原木等の剪定及び敷地内の除草作業。管理はシルバー人材センターである。実際の業務は「三ヶ日町郷土を語る会(72 人)」に所属している会員がシルバー人材センターの会員となり実際に担当しているのは 8 人であるが、地域住民の施設への愛着は強い。

みかんの里資料館では、この地域を代表する産物の三ヶ日みかんについてアピールするとともに、



庭に植えられているみかんの木、体験学習の生徒は食べる事が出来る。

地域の活性化のための都市住民との交流促進を図る為に整備されているため、小学校3年生を対象にした学習体験の場として提供し、「三ヶ日みかん」について知ってもらっている。年間6~7校が利用しており、庭のみかんの木からもいで食べることもできる。利用料は無料。平成28年度は奥浜名湖田園空間博物館総合案内所の事業とタイアップして摘果みかんのジュース作り体験講座を実施した。

また、民間団体が実施している「姫街道 直虎検定」において、全100問題の中に三ヶ日みかんの里資料に関する問題があり、利用者増に貢献している。年間約3,000人の利用者がある。平成25年度から平成29年8月では述べ4万人が利用した。

浜松市内には他にも廃校したところがあるが、取り壊したところには工場が建っているという。体育館を地元で利用するからと借り受けているところもあるが、近年その維持に苦慮しているという。

考察

泰阜村の取組は、こんな田舎に誰も来てくれないから、来ていただけるなら村で施設整備の費用負担をしようという考え。参加企業は100万円の出資ならリスクが少ないから思いついた。

三ヶ日町の場合は、地元住民の厚い郷土愛と静岡県の実業がうまくマッチングできた事例であるが、維持管理費は浜松市から出ている。

上記の事から、学校という建物は小さく区切られた空間が多く、改修工事をしなくては利用が困難なことが多く、その為利用する企業も限定される。真庭市に於いては、産業団地の企業誘致補助金のように地元雇用を条件にでも、行政負担も考えていかななくては廃校跡地の利用にはつながらないと考える。

参加した人 古南源二、原秀樹、中尾哲雄、福井荘助、福島一則以上5名

出会った人



泰阜村役場

庶務課長 兼 会計管理者

松下 隆直

〒439-1800
静岡県伊豆市泰阜村12-16番地1
TEL:0558128-2111
FAX:0558128-2106



丸西産業株式会社

農産事業部 主任 熊谷 元海

【本社】
長野県諏訪市松尾3755-1 TEL:0265-0823
TEL:0265122-3082 FAX:0265152-0449
<http://www.kasei.co.jp>



浜松市



産業部 農地整備課
総務調査グループ

主任 宮脇 守

Manoru Miyawaki

〒430-8692 浜松市中区元城町103-2
TEL:053-457-2311 FAX:053-457-2214

三ヶ日町郷土を語る会 会長
静岡学院大学(長岡)ボランティア(スペイン課)
三ヶ日町茶クラブ事務局長

河西 正和

〒431-1405 浜松市北区三ヶ日町津々崎281
TEL&FAX (053)525-0905

平成 30 年度 視察等の届出・報告書 (8~10)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
9	11/1~2	古南源二	原秀樹	京都府京丹後市（液肥散布車について）・京都府舞鶴市（全国水源の里シンポジウム）



平成30年 10月 18日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 古南源二



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

京丹後市	生活環境課 京都府京丹後市峰山町杉谷889番地
第12回全国水源の里シンポジウム	舞鶴総合文化会館 京都府舞鶴市浜2021 2日目現地視察 京都府舞鶴市布敷地区

3 内 容

京丹後市	液肥政策を取りやめた3tバキュームタンク車を見る。
舞鶴市	各地の地域づくりの取り組みを調査研究する。
視察	舞鶴西IC近く布敷集落を視察。

4 行 程・は別紙のとおり 11/1 ~ 2

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

参加者名簿 (古南源二、原秀樹、) 以上2人



全国水源の里シボニユル参加予定表


11月日 京子後市では夜間集を取り止めたGんの散竹を見る。
 真登 700 車働 京子後市着10:30 ~ 現世察 ~11:00 移動時間30分 舞臺着2:30 水源の里 オープン3:00 泊
 11月日 泊 8:30 / 文移動 現世察 昼食 解散3:45 赤ンガキウ 車働 真登着 17:00



様式第2号

報 告 書

平成30年 12月 12日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南源二 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究 研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を代表して報告いたします。

1	日 時	自 平成30年 11月 1日 (午前・午後) 7時 00分 至 平成30年 11月 2日 (午前・午後) 5時 10分
2	場 所	①京丹後市弥栄町船木 京丹後市エネルギーセンター ----- ②舞鶴市総合文化会館&布敷地区
3	要 件	①3トンの液肥散布車を見る ②第12回全国水源の里シンポジウムに参加。取り組みを研究 布敷地区の活動状況を視察
4	概要	以下の通り

概要

京丹後市野 3 トン液肥散布車は、事業廃止の為施設内に置かれていた。施設はNEDOの事業で「京都エコエネルギープロジェクト」の研究拠点施設として、平成17年に建設した。

20年に当プロジェクトが終了したため、平成21年に京丹後市が当施設をNEDOから無償で譲り受けた。京丹後市における循環型社会の形成を図るため、エコエネルギーや情報発信、資源の利活用などと共に、環境学習や食品系未利用資源の再



液肥運搬車と仮設タンク



資源化促進の拠点として京丹後市エコエネルギーセンターを設置した。

大阪市内の社員食堂からでる厨房残さを原料として受け入れ、家庭生ごみを原料としてメタン発酵によるバイオガス発電を行った。

発電した電気は、センター内の動力として利用し、余剰分は電気事業者に売電していた。バイオガスを取り出す過程で発生するメタン発酵消化液は、窒素・リン酸・カリ等の肥料成分を含んでいるため、これを液肥として農業に有効利用。平成 23 年度に、液肥を利用する農家 31 軒が集まり、液肥を活用した資源循環型農業をより積極的に推進するため「京丹後市液肥利用者協議会」を発足した。

液肥は、水稻の場合、水田 10 アールにつき 3~4 トンの量を吸引、加圧装置付専用のクローラ車(2500ℓ)「図 1」により散布していた。化成肥料を用いた慣行農法よりも 3 割から 5 割の肥料代の削減になると見込むとともに、散布してもらえるため農家にとっては労力削減にもなると好評だった。

散布車の規格は、タンク容量 2500ℓ、全長 4690、全幅 2150、全高 2445、車両重量 3200 kg、駆動方式全油圧操作、散布方式スプレーバー、散布幅 4m、散布能力 4000ℓ/10a。

平成 26 年度には約 5,200 トンの液肥を約 150 ㌦の水田や畑に散布しました。110 人の市内農家がこの液肥を利用して水稻や野菜等を栽培し、資源循環の農作物を表す「環のちから」のブランド名で市場開拓に取り組んでいた。29 年度の散布量は 7000t。

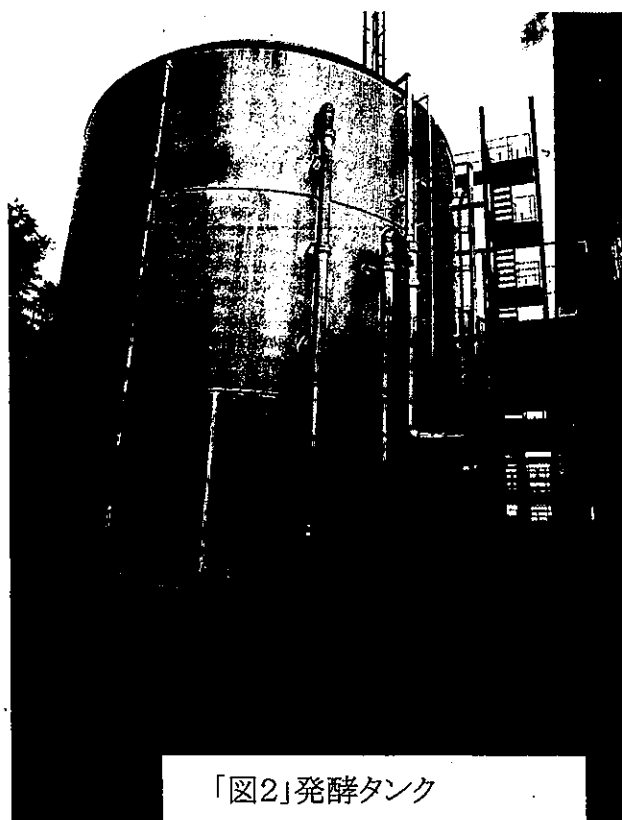
29 年に発酵槽「図 2」のコンクリート壁から液漏れがあり、発酵タンクの修理、新設も含めて運営には莫大な費用がかかり財政上困難と判断。29年度末で閉鎖した。

全国水源の里シンポジウムでは、東京大学名誉教授大森 彌氏の「農山村と都市の共生」と題した基調講演があり、都市部は将来滅びるかもしれないが、農山漁村は滅びない、丹後半島の 5 市 2 丁は水平連携をしていかなければならない。AI よりも SI が大事。社会にどれだけ関り、どれだけ貢献できるかが将来大事になって来る。

事例紹介では、舞鶴市長の多々見良三氏の「広域連携・京都府北部地域の連携都市圏の取



「図1」3t液肥散布車



「図2」発酵タンク



オープニング来賓の方々



組。ローカルジャーナリストの田中輝美氏は「移住者でもなく観光客でもない、農業のお手伝いとか、イベントに参加してみるという関係人口という新しい共生のカタチ」を紹介された。

パネルディスカッションでは、福知山公立第学准教授杉岡秀則氏をコーディネーターにパネラーには、写真左から西芳寺平地区で農業の傍ら村の荒廃を案じて、移住の受け入れや交流活動を行っている霜尾オ一氏、浜田市で生まれ参院中央新報社に努めた後独立して、関係人口についての著書もあるローカルジャーナリストの田中輝美氏、京都で移住希望者や移住者の支援に取り組んでいる田村篤史氏、東京で特別区全国連携プロジェクト推進に取り組んでいる菅野良平氏。



パネラーの方々

大会アピールを発表し、次回開催地の香川県満濃町と琴平町が紹介され閉幕。

現地視察は、舞鶴西IC近くの布敷地区の活動を視察した。地区の集会所で布敷地域ビジョン策定委員会の4人の方々から、この地域は古くから農業が生活の基盤であり、地域の生物や自然の景観を大切にして将来を見据えながら、地域が一体となって現在の取り組みを充実させるとともに、新たな取り組みを検討・実施し、より良い布敷地区にする為に地域ビジョンを策定して行動していた。



集会所で説明を受けた。

参加した人：古南源二、原 秀樹 以上2人

行程表

全国水源の里シンポジウム参加予定表					
11月1日	真庭発	7:00 車移動	京丹後市では湖田政策を取りやめた3トンの散布車を見る。 京丹後市着10:30 ~現地視察~11:00	移動1時間30分 舞鶴着12:30	水源の里 オープニング13:00~
			京丹後市峰山町杉谷889?0772-69-0001 市民環境課(左の一番奥)担当ウ/様		ホテル着
11月2日	ホテル発	8:30	バス移動	現地視察 昼食 解散13:45赤レンガパーク	車移動 真庭帰着 17:00

出会った人





京丹後市役所
農林水産部 農業振興課
Duba Takarori
課長 大久保 真教

〒629-2501
京都府京丹後市大宮町大口226
TEL 10772 69-0410
FAX 10772 64-5900

地域振興部長
米原市

本田 忠光

〒521-8501 海東橋米原市下多良三丁目3番地
TEL 0749-52-8623(直通)
FAX 0749-52-4530



京丹後市役所
農林水産部 農業振興課

課長 西村 誠志郎
Seishiro Nishimura

〒629-2501
京都府京丹後市大宮町大口226番地
TEL 1077269-0410 FAX1077264-5660



Human being, Water, Verdure
Kyotango-city

宇野 浩嗣
Hiroyuki Ueno

京丹後市 市民環境課 生活環境係

〒627-8547 京都府京丹後市城山町 彩雲555番地
TEL 0772-66-0249 FAX 10772-62-2414

URL: <http://www.city.kyotango.lg.jp/>

★ 田辺市
農林水産部 森林局

局長
清水 健次

〒640-1192 和歌山県田辺市船山2007-1
TEL0739-49-0303 FAX0739-49-0359

〒640-1192 和歌山県田辺市船山2007-1
TEL0739-49-0303 FAX0739-49-0359



まんのう町

町長 栗田 隆毅
Takayoshi Kurita

〒766-8501
徳島県美波町まんのう町吉野下430番地
TEL 10877 73-8100
FAX 10877 73-8112

綾部市 定住交流
定住・地域政策
(全国水源の里連絡協議会事務)

課長 朝子直樹

〒823-8501 京都府綾部市若竹町 8-1
TEL0773-42-3280
Fax 0773-42-4406

水源の

長岡市地域振興戦略部

部長 柿本 良衛

〒648-1192 和歌山県田辺市船山2007-1
TEL 0773-45-1664 (直通)
FAX 0773-42-8180

宮津市企画部
企画政策課

課長 松島 義孝

〒626-4501
京都府宮津市字神尾3-1-1
TEL 0772 45-1664 (直通)
FAX 0772 42-8180

URL: <http://www.city.miyazu.lg.jp/>

舞鶴市 健康・子ども部長

福田 豊明

〒625-8556 京都府舞鶴市10414番
TEL 0773166-1051
FAX 0773162-0897

★ 田辺市役所

企画 山形課長 山形健司 専任

吉本 圭佑
Yoshimoto Kei-ya

〒648-1192 和歌山県田辺市船山2007-1
TEL 0739-49-0303 (直)
TEL 0739-49-0359

舞鶴市建設部
建設総務課

主任
南部 浩一

〒625-8556
舞鶴市字北環1044
TEL 0773166-1052
FAX 0773162-0894

学校法人聖日ゼフ学園
法人本部事務局

事務長 小谷 真知子

〒624-2777 京都府舞鶴市上宮久391番地
TEL 0773175-4384
FAX 0773175-7069

平成 30 年度 視察等の届出・報告書 (8~10)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
10	11/14~15	妹尾智之		東京都・(株) 社会保険研究所 (地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー)



平成 30 年 10 月 9 日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 妹尾智之



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

ビジョンセンター東京有楽町

3 内 容

第17回地方から考える「社会保障フォーラム」

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



公明党真庭市議団 研修日程表

期 日	行 程
11月 14日(水)	真庭市 →→→岡山空港発 (ANA654便) >>> 羽田空港着 == (株)社会保険研究所(セミナー) 13:00~17:50 7:15 9:20 10:40 13:00 → ホテルモントレ銀座(宿泊)
11月 15日(木)	ホテルモントレ銀座 → (株)社会保険研究所(セミナー) 10:00~15:10 9:30 羽田空港発 (ANA657便) >>> 岡山空港着 →→→ 真庭市着 20:10 21:30 22:50

【 研修先 】

ビジョンセンター東京有楽町 東京都中央区銀座1-6-2銀座Aビル3階 電話 03-6262-3535

【 宿 泊 】

ホテルモントレ銀座 東京都中央区銀座2丁目10-2 電話 03-3544-7111




様式第2号

報告書

平成30年11月19日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 妹尾智之 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成30年11月15日(午前・ <u>午後</u>)12時45分 至 平成30年11月16日(午前・ <u>午後</u>)15時00分
2 場 所	ビジョンセンター東京有楽町
3 用 件	第17回 地方から考える「社会保障フォーラム」
4 概 要	



報告書（継紙）

第17回 地方から考える「社会保障フォーラム」

11月14日（水）

【 講義1 】 「子どもの貧困 — 現状と課題」

講師：成松 英範 氏 厚生労働省 子ども家庭局家庭福祉課長

【 感想 】

ひとり親家庭の親の就業率（母子・父子家庭）は、全世帯就業率と比べて高い傾向にある。子どもの進学については、高等学校進学率については差はあるが大きな隔たりはないようである。大学等進学については、全世帯と比べ大きな差になっている。複数の困難な事情を抱えている方が多いため一人一人に寄り添った支援の充実が必要であると思う。母子家庭の母等の自立支援関係事業の実施状況等（平成28年度実績）で自立促進計画、就業・自立支援事業、自立支援給付金事業等々あるが、真庭市の場合、全ての事業に取り組めていなく、今後の大きな課題とおもう、ひとり親に対して、もっと行政が寄り添った窓口大切だと思う。

【 講義2 】 「障がい者も健常者も自立できる社会を目指して」

講師：山口 正行 氏 厚生労働省 障害保健福祉部障害福祉課障害児・
発達障害者支援室長

【 感想 】

障がい者の障害福祉サービスと障害児サービスは年々増加傾向にある。平成28年4月から平成29年4月の伸び率（年率）7.3%、このうち、身体障害者1.5%、知的障害者3.7%、精神障害者8.7%、障害児17.9%と近年の障害児の伸び率が増加している。地域生活支援拠点等の機能強化、第5期障害福祉計画（平成30年度～32年度）では、平成32年度末までに「各市町村又は各障害保健福祉圏域に少なくとも1カ所の整備」を基本。となっているが、真庭市においても、早急に計画をすべきと思う。地域における医療的ケア児の支援体制の整備が必要である。発達障害児等の取組みは、先進地の事例を参考にもっと取り入れるべきと思う。ネガティブをポジティブに変える。アイデアを使って地域の活性化に繋げることが出来る。

報告書（継紙）

【 講義 3 】 「地域包括ケアの成功例、失敗例に学ぶ」

講師：山路 憲夫 氏 白梅学園大学「小平学・まちづくり研究所」所長

【 感想 】

成功例では、千葉県柏市（強力な推進役＝東大と行政の二本柱）、在宅医療の推進。在宅医療を含めた真の地域包括ケアシステムの実現。

サービス付き高齢者向け住宅と在宅医療を含めた24時間の在宅ケアシステムの組み合わせによる、真の地域包括ケアシステムの日本のモデルの実現。ができています。

地域の高齢者が地域内で就労するシステムを構築し、できる限り自立生活を維持できるような仕組みづくりが、できています。

失敗例では、①在宅医療の不足、②行政の動きの鈍さ、③地域の支え合い（コミュニティ）の薄さ。などが挙げられていた。

地域医療計画はどうなっているのか？医療と介護の連携を考えると在宅医療が必要になると思う。

11月15日（木）

【 講義 1 】 「2040年から考える社会保障」

講師：伊原 和人 氏 厚生労働省 大臣官房審議官〔総合政策（社会保障）〕

【 感想 】

2040年までの人口構造の変化、65歳～74歳までが2000年～2025年までの高齢者人口の急増66.8%の増加に対し、2025年～2040年までの増加は6.6%と緩やかになっている。65歳以上を一律に高齢者とする考え方を見直す考えは今後必要となると思われる。2040年の高齢化率は35%。減少を続けていた高齢者の就業率も、2013年を境に上昇中である。65歳を超えても、より長く、元気に活躍できる環境整備を進めることが急務であると思う。

医療分野：ICT、AI、ロボットの活用で業務代替が可能と考えられるものが5%。

介護分野：特別養護老人ホームでは、入所者2人に対し介護職員等が1人程度の配置となっているが、ICT等の活用により2.7人に対し1人程度の配置で運営している。

報告書（継紙）

日本において社会保障における税金の負担が少なく社会保障の負担は多い、今後は税金を上げるのか、負担を少なくするのかの選択が待っている。OECD諸国と比べ税負担が少なく保障が大きい国は無い。

後期高齢者の健康寿命の高いところと低い所では、医療費においても差が出ている。健康寿命を延ばすことで医療費の削減が出来る事は間違いない。健康寿命の更なる延伸にむけて、健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進が大切だと思う。

【 講義 2 】 「地域共生社会を考える」

講師：宮本 太郎 氏 中央大学法学部教授

【 感想 】

男性が退職後に、世の中のお荷物になるか資源になるか？

高齢単身男性は会話頻度も少ない（2週間に1回以下が15% 2017年）

孤立が困窮を逆に強める「頼れる人がいない」男性独居24, 4%、女性独居9, 2%

「家計が苦しい」男性独居32, 2%、女性独居23, 9%という調査から、男性の方が、地域社会に取り残されている。退職後の生きがいのために「誰もが人材」への包括支援を成功している事例から、学ぶことは多くある。「ユニバーサル就労推進条例」を目指している自治体は多い、養老サービスから「幼老」サービスや「積極的老年介護」へ、「グランドシッター」の養成と認定も行なわれている。こういった事例も真庭市に取り入れていければ良いと思う。

【 取材の現場から 】

（株）フィスメック「引きこもり」問題

「社会保険旬報」

「年金時代」

【 感想 】

「引きこもり」に対して、内閣府の調査では15歳から39歳が対象になっていたが40歳以上は問題とされていなかった。実際には40歳以上の引きこもりの方もいて、

報告書（継紙）

「8050問題」が表面化してきていて、深刻な問題である。

平成30年度からは、市町村において、利用可能なひきこもりの相談窓口や支援機関の情報発信をするとともに、ひきこもり支援拠点（居場所・相談窓口）づくり等も行なう。となっているので、期待していく。

「社会保険旬報」は公明党の認知症施策推進基本法案制の策定に向けた動きの取材内容。若年性認知症の方は、就労や社会参加への意欲がある。認知症の方たちのニーズをきちんと踏まえてサービスを提供できているか。事例では、自動車販売店から請負で洗車活動や、学童保育での認知症をテーマにした紙芝居の読み聞かせを行っている。全員で月2万円頂いている。ニーズに合った就労や社会参加につながっていた。

「年金時代」

65歳より早く受給を開始した場合には、年金月額が減額（最大30%）となる一方、65歳より後に受給を開始した場合には、年金月額が増額（最大42%）となる。繰上げによる減額率・繰下げによる増加率については、選択された受給開始時期にかかわらず年金財政上中立となるように設定されている。高齢化がすすみ元気な高齢者が意欲を持って就労年齢が上がれば、年金受給年齢も繰下げでの受給になると思われる。